

「八戸ビッグバレー」4年ぶり交流会 比との共存共栄事例を紹介



大谷真樹前学長(右)の話に耳を傾ける参加者

首都圏

だより

八戸学院大の大谷真樹前学長が主宰する異業種交流グループ「八戸ビッグバレー」の東京支部ネットワーキング(情報交換会)が5月31日、東京・北千住で開かれ、首都圏在住の八戸市出身者らがグラスを傾けながら近況を語り合った。

東京支部は同大の起業家養成講座の参加者を中心となつて2010年に結成し、この日が約4年ぶりの開催。同市出身の西村直剛さんが経営する「炭火焼ごっつり」を会場

に20〜70代の45人が集まり、大谷さんが社長を務める学校法人・光星学院(同市)の子会社「八戸学院グループ」の活動を紹介した。

大谷さんはフィリピンでの学校開設について、労働力の受け皿が不足するフィリピンと人口減少に直面する日本双方の問題を、教育を通じて解決するという狙いを示し「八戸モデルを作れば全国の地方都市に広がる。日本とASEAN(東南アジア諸国連合)の共存共栄を目指したい」と説明。参加者が先進的な取り組みに熱心に耳を傾けていた。

(藤野武)